

土木森林環境委員会 県内調査活動状況

1 日 時 平成26年11月12日(水)

2 出席委員(9名)

委員長 桜本 広樹

副委員長 遠藤 浩

委員 臼井 成夫 石井 脩徳 清水 武則 久保田松幸 大柴 邦彦

土橋 亨 小越 智子

欠席委員 なし

地元議員 齋藤 公夫(南アルプス市)

3 調査先及び調査内容

(1) 【通常砂防事業漆川砂防堰堤】(南アルプス市平岡地内)

調査内容(主な質疑)

問) 砂防堰堤が完成すると、この区域は土砂災害警戒区域の指定が解除されるのか。

答) 砂防堰堤の整備により安全が確保されるため、指定解除の要件は満たすことになる。しかし、広島の土砂災害や、その他の全国的な災害を見ると、想定外の事象が起こっているため、警戒区域の指定を解除するには慎重にならざるを得ない。全国の状況や地域住民の意見を参考にしながら、今後検討していきたい。

問) 安全性は向上するが、土砂災害警戒区域の指定は解除しない方がよいという考え方が。

答) 砂防基礎調査で把握した土石流の流体の破壊力は今回の事業によって抑制できるが、全国的な状況を見ると、想定外の災害が発生しているため、状況を見極めたい。新聞等でも、国が土砂災害防止法の見直しを行うとの報道があるため、その状況を踏まえながら対応していきたい。

問) 漆川砂防堰堤の斜面の地質と斜度、雨量を教えてほしい。また、何年に一度発生する規模を想定しているのか。

答) 地質は風化凝灰角礫岩で、現況勾配は10.3度、5.5分の1、雨量は24時間で269.4ミリ相当である。また、100年に一度に発生する規模を想定して計算をしている。

問) 凝灰角礫岩というのは、山梨県のどこにでも存在する地質なのか。

答) 今話題になっている花崗岩は、山梨県の北部から峡東地域にかけて存在している。凝灰角礫岩は昔のフォッサマグナといわれる部分であるので、南部から花崗岩地帯がある手前まで存在していると認識している。凝灰岩は海中で噴火した火山灰が積もったものであるので、フォッサマグナ沿いの、昔は海底で、火山が噴火して溜まったようなところに多く存在している。

問) 砂防工事の設計は外部委託しているのか。災害発生規模はその委託先で計算しているのか、または、県が計算式を出しているのか。

答) 設計は外部に委託をしており、国の基準に基づいて計画をしている。



防災新館304会議室において概要説明を受け、質疑を行った後、現地視察を行った。

(2) 【南アルプス市櫛形地区地域ぐるみの捕獲推進モデル事業】(南アルプス市曲輪田地内)

調査内容(主な質疑)

問) 資料4ページについて、平成24年度に実施した調査と、平成25年度以降に実施した調査の違いを説明してほしい。

答) 調査の方向性が異なる。本事業は地域全体で捕獲率を高め、被害を減少させる体制の構築を図ることを目的に実施しているため、定期的に被害状況を調査し、捕獲対策を進めることにより被害がどのように変化するかを考察することとしている。

平成24年度は聞き取り調査やアンケート調査を元に、林縁部からの進出状況を調査し、基礎データを作成した。このデータを元に、さらに被害状況の調査のみならず、定量的で季節間変動を踏まえた調査により、効果的な被害防止対策を進めるとともに、この効果を検証するため、平成25年度から定点痕跡調査に移行して実施している。

問) この事業は、住民やわな免許所持者など、住民側の活動から始まったと思うが、どのような流れでこういう事業が行われるに至ったのか。その流れを説明してほしい。

答) 地区の住民から果樹の皮剥による被害に対する要望が数多くあり、市へ要望したところ、このような事業があるということで行われることとなった。

問) 住民のわな免許所持者と農業者が一体となって捕獲を行っているが、具体的にどのような役割分担をして行っているのかを教えてください。

答) 区長から代表者を推薦してもらった。農業をしていない者も捕獲班には入っている。その人たちにも毎朝6時からの見回りをしてもらっている。

問) 説明の最後の方に、今年度で事業は終了するが、こうした考え方は継承していきたい、また、他地区への波及も願っているという話があったが、具体的にどのような行動をしていくのか。

答) 曲輪田で進めた捕獲班の体制づくりが基本となるので、その成功体験を元に、他の各地区へも拡充をしていきたい。まずは、わなによる捕獲講習会を開催したり、集落環境診断をしたりするとともに、地域の課題を見つけながら、対策を整えていくという形で進めていきたい。協議会を主体に、絶えず連携を取りながら捕獲体制づくりを進めていきたい。

問) くくりわなの捕獲頭数が減っている。地域によってどのくらい生息しているのか把握ができていないと、どの程度成果が出ているかわからないと思うが、塩沢川エリアと大和川エリアでどのくらいの頭数が生息しているかわかっているのか。

答) 生息している頭数は把握していないが、付近の畑で痕跡が数多くあるところを重点的に、その畑にどのようなルートから入ってくるかということをもベテランのハンターからアドバイスをもらってわなを設置している。

問) 合計37頭捕獲しているが、まだ数多くいると考えているということでしょうか。

答) わながあるところを毎朝見ているが、わな周辺に痕跡があるので、まだ数多くいると考えている。

問) 捕獲による報奨金について伺いたい。

答) 有害鳥獣捕獲ということで、市の報奨金が一頭あたり5千円、緊急捕獲計画による上乗せが一頭あたり8千円、合計、一頭あたり1万3千円の捕獲報奨金が出る予定である。

問) 北杜市には捕獲した鳥獣の埋設場所が一カ所ある。地域住民と上手に話しをしないと埋設場所の整備が進まないと思うが、南アルプス市の場合はどのような形で話を進めているのか。

答) 南アルプス市の埋設場所は、長峰林道沿いの標高700メートルくらいのところにある。ここまで運搬しなければならぬため、冬の時期には凍結して行きにくいということで、現在埋設場所を探しているが、なかなか地域住民の同意を得るのが難しく、難航している状況である。

問) 今回の南アルプス市楡形地区の取り組みについて、県ではどのような指導や助言をし、またどのように評価しているのか。

答) わな免許所持者と所持しない者が連携し、集落本位で取り組むというこの事業の取り組みについては、農業従事者が中心となり、現場の一番近くで捕獲する点で、非常に効果がある取り組みだと考えている。このモデル事業が国で創設された際、楡形地区で同じような捕獲推進体制を構築している印象があったため、このモデル事業の実施に踏み切った。

県の指導や助言としては、くくりわなの関係の資料の提供や、国のモデル事業の趣旨に沿った実施について指導等をしている。

問) 南アルプス市や協議会の皆様から見て、この事業のいいところ、悪いところ、困っているところなど、言いにくいかもしれないが、あったらお聞かせ願いたい。

答) いいところは、私たちが捕獲していることで、農地に侵入してくる頭数が非常に減少したということがはっきりとわかるところである。また、一番苦労しているところは、先ほど杉山課長が言ったように、捕獲した個体の処理である。埋設場所まで行って帰ってくると1時間くらいかかる。また、朝6時から見回りをしているが、毎朝となると、みんな仕事があるので時間的に厳しい。

問) 非常によい制度だという話と個体処理が大変だという話があったが、それを受けて、環境省からの補助金は今年度で打ち切りになってしまうのか、これで事業、補助金が終わってしまうとどうなるのか、県としてどのように考えているのか。

答) この集落ぐるみの取り組みについては、県としても普及促進をしていきたいと考えている。このモデル事業に近い、わな免許所持者と所持しない者が連携したわな捕獲推進体制の構築についての県単独事業があるため、そういった事業も含め、推進体制の普及促進に取り組んでいきたいと考えている。



楡形北地区農村環境改善センターにおいて概要説明を受け、質疑を行った後、現地視察を行った。

以 上